

調査結果の概要と今後の取組について

丹波市立春日中学校

4月14日（月）・17日（木）に実施された令和7年度全国学力・学習状況調査結果の分析を行いました。その概要をお知らせいたします。

この調査で測ることができるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一部でしかありません。したがって、本調査で測れていない学力や教育活動を含め、総合的に分析し、今後の教育活動に役立てていきます。

1 調査の概要

(1) 目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- ◇調査の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 内容

①教科に関する調査(国語・数学・理科)

- ◇身に付けておかなければ後の学年等の学習に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。
- ◇知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立てて実践し評価・改善する力など。

②生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査

- ◇児童生徒に対する調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)
- ◇学校に対する調査(指導方法に関する取組、指導方法の工夫、学校経営に関する取組、家庭・地域との連携の状況)

2 教科に関する調査の結果

(1) 全体の概要

今回の調査は「国語」「数学」「理科」の3教科で実施されました。調査結果は、「国語」「数学」「理科」とも、全国の平均正答率と比較して同程度という結果でした。ただ、共通して、低位層は少ないが、上位層も少ない傾向が見られました。また教科を問わず、定義づけられた用語への理解があいまいな生徒が多い傾向が見られ、今後は、用語に関しての正しい理解を促し、スパイラル的な復習で授業導入をする等その傾向が解消されるようにしていきます。

(2) 国語

【成果】

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」のほぼすべての観点でわずかながら全国平均を上回っています。バランスの良い学力状況でもあり、話す・聞く・読む・書く・話し合う等、様々な言語能力が発動された授業を心掛けてきたことによるものと考えられます。

【課題】

文法事項を踏まえた作文技能を問われる設問での正答率が低かったです。無回答や型の定まらない誤答の割合も多く、問題文の内容が読み取れていないということも考えられます。文法事項を踏まえた作文技能や敬語表現において、修飾関係や主述の関係等ははつきりさせるために語順を入れ替えるといったことを身につけさせていく必要があります。



【改善の方向性】

学習分野として、それぞれの分野で求められている身に着けさせるべき力を明確にとって、その目標を生徒とも共有しつつ、学習を進めていく、また家庭学習に当てている時間がかなり少ないとから、日常的に生徒の定着への努力を認め、習慣にまで高めていきます。生徒の学習状況に対する助言を適時に行い、見方・考え方について、授業時間内だけでなく、普段の生活の中で活用されているような状況を作っていくみたいです。主述の関係、敬語表現などについての正確な理解を踏まえたうえでのきめ細かな作文指導が必要です。

(3) 数学

【成果】

確率についてデータを活用し、説明をする設問が良くできていました。日頃の授業の中で根拠を明らかにしながら友人に説明する活動を多く取り入れてきたことの成果です。

図形の証明から新たに分かることを選ぶ問題では、分かったことから、さらに分かることはないか問うことを常に問いかけているため、正答率は高かったと考えられます。

【課題】

「数と式」「図形」領域に課題が見られました。特に「等式の変形」や「図形の回転移動」に大きな課題があります。また、「数学的な表現を用いて説明する」「筋道を立てて説明する」など、数学的な表現を用いて説明することに課題が見られました。「短答式」「記述式」の問題では無回答率が高い傾向にあります。下位層が多く、また、やや2極化傾向にあります。



【改善の方向性】

普段の授業や定期テストからも用語の理解が不十分であり、何を問われているのか分からない生徒が多かったと考えられます。定義を自分なりの言葉で説明させるなど、定着するための活動を取り入れていきます。上位層が全国平均よりも少なかったため、基礎・基本の定着を中心にしながらも、一人ひとりのあった学習教材の提示により、さらに力を伸ばしていき、下位層のさらなる底上げのために、手続き的な知識から少しづつ身に着けさせるために、問題演習の量を増やしていきます。

(2) 理科

【成果】

思考力を必要とする問題が良くできていました。授業中に発展的課題を多く設定しグループワークで取り組ませてきた成果だと考えられます。また、グループでの探究活動や個人での実験レポート作成などの取り組みを多く行ったことで、新たな疑問を見出したり、身近な生活と関連づける力も定着したと考えられます。

【課題】

条件を踏まえて記述で解答する問題を苦手としている生徒が多くみられ、関連づけなど、問われていることをしっかりと理解して答えることができていない様子が見られます。また化学式のような基礎的な知識の定着ができていない傾向があります。同時に、知識が概念として身についていない傾向も現れています。上位層が比較的に少ない傾向がみられています。



【改善の方向性】

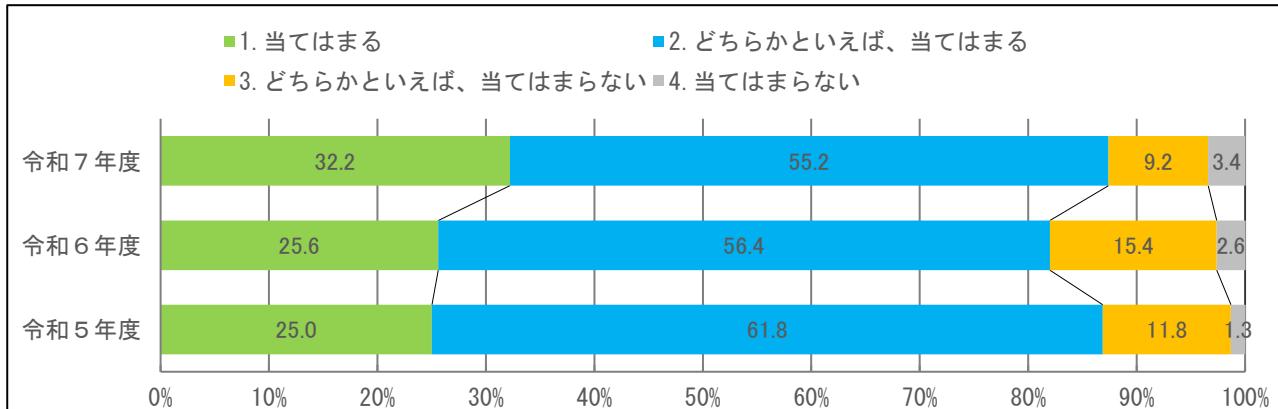
条件を踏まえた記述問題を苦手としているため、授業やテストなどで、記述を必要とする内容を増やし、不足なく説明できているかなど、細かく評価し、伝えていきます。

また知識の定着にも課題が見られるため、授業内での復習や小テストなど知識を活用する機会を増やし、基礎的な学力の定着を促していきます。同時に、概念として言葉で説明できるような取組を行います。

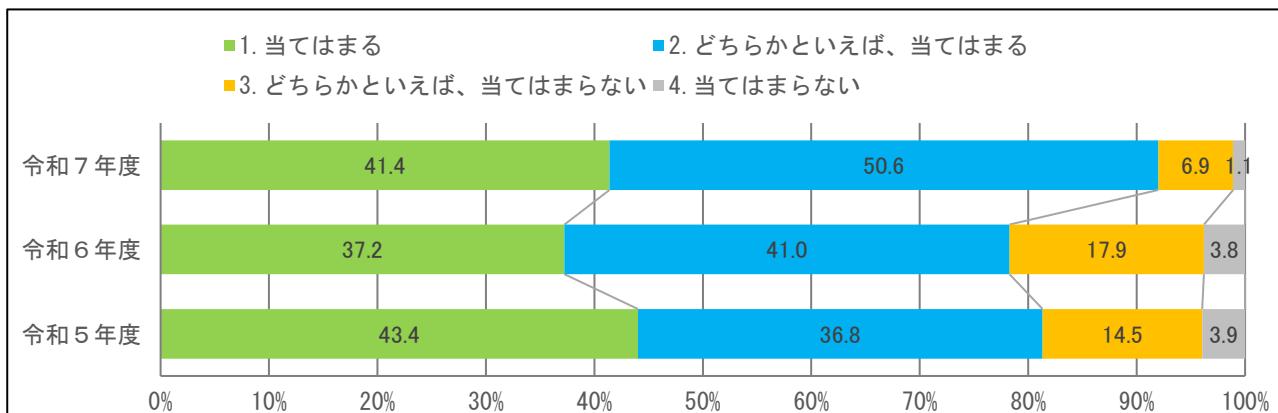
3 生徒質問紙の結果

学校生活

(1) 自分には、よいところがあると思いますか。



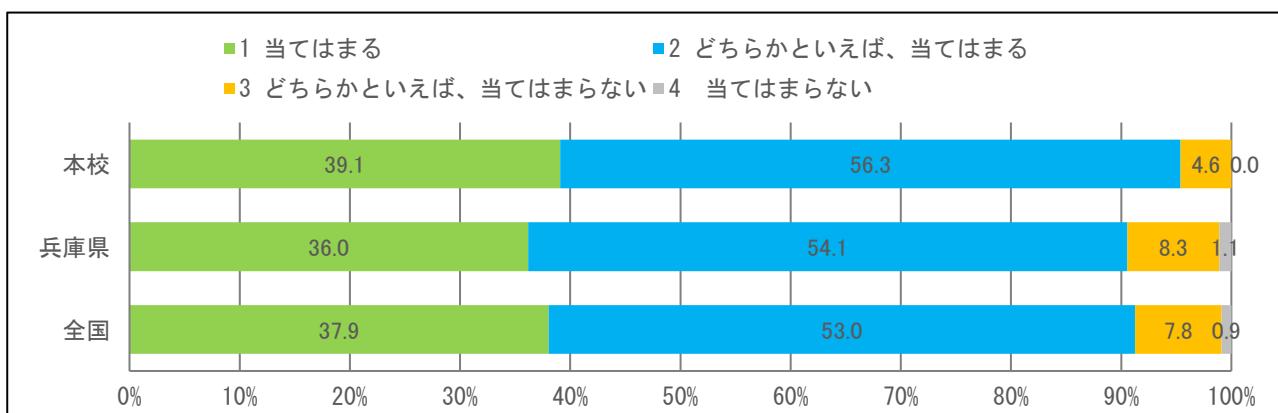
(2) 学校に行くのは楽しいと思いますか。



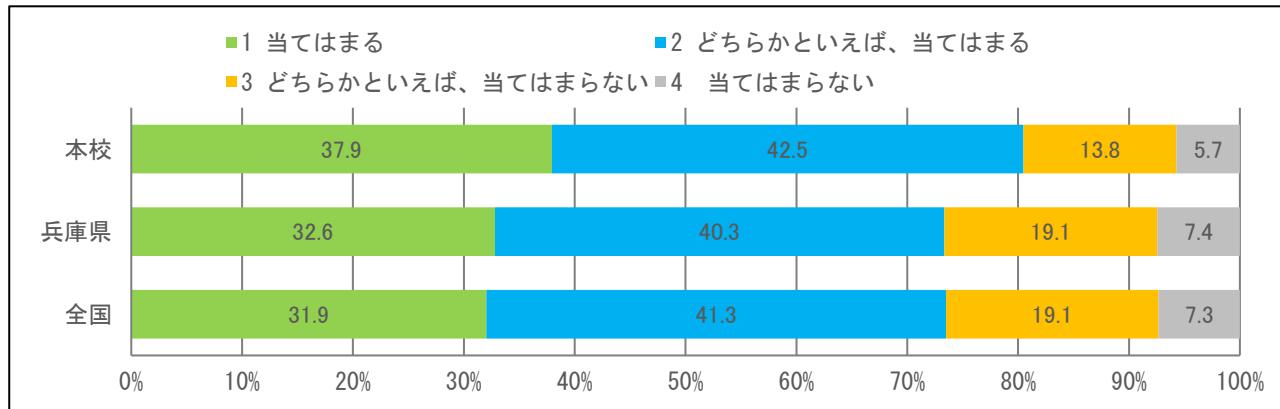
自己肯定感では、例年低い傾向が見られますが、少しづつ改善してきています。自分自身の価値や長所が認識できるように、様々な場面で生徒が活躍できる場を作っていくたいと思います。

「楽しい」と感じている生徒が多くなっており、よい傾向が見られますが、否定的な回答をしている生徒も存在しており、さらに肯定的な回答をする生徒が増えるように努めています。

(3) 人が困っているとき、進んで助けていますか。



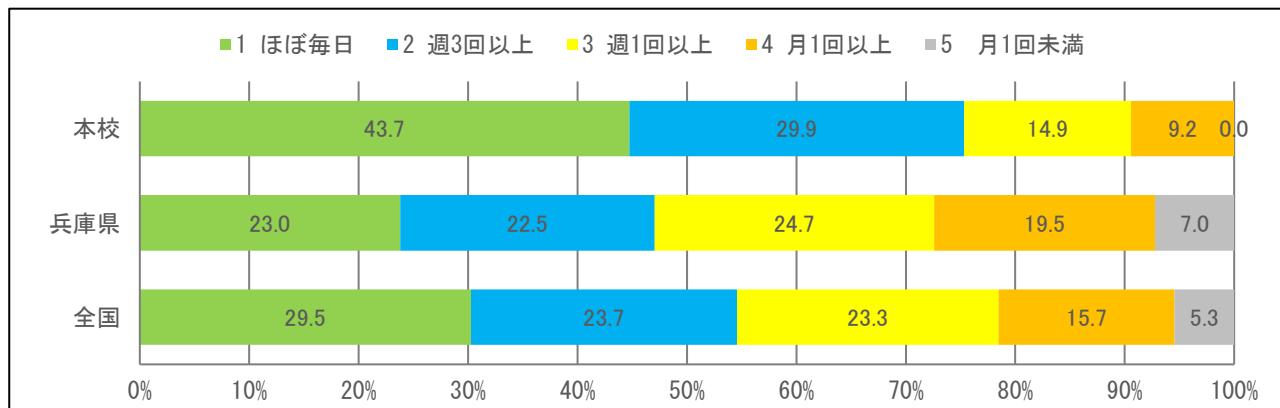
(4) 困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。



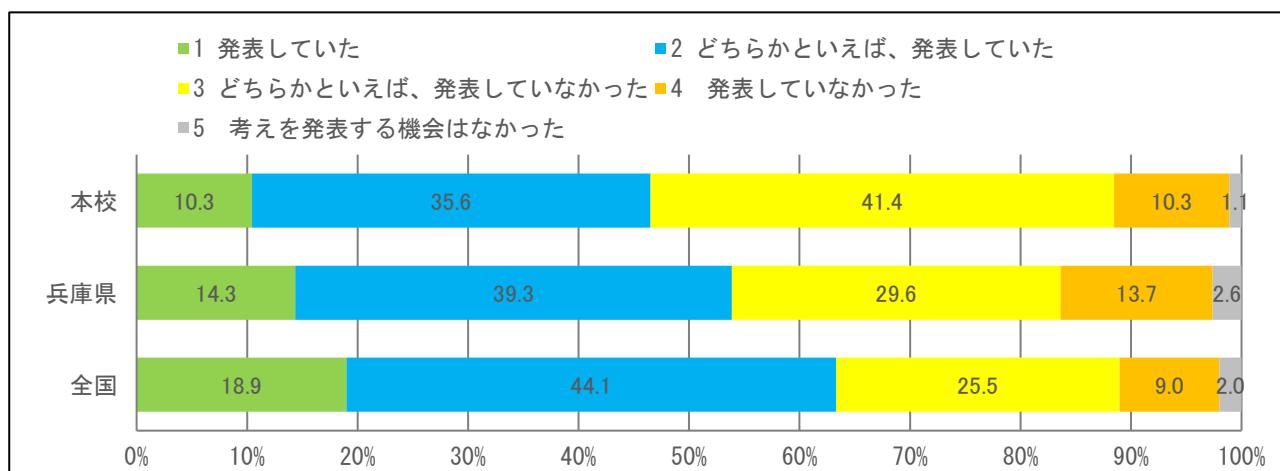
大切な力である向社会性は高い傾向が見られます。人間関係や支援体制がうまく機能し、心理的安全性が一定、確保されていると考えられます。安心して学校生活が送ることができることが、生徒の活動を支え、成長をうながす礎になるため、継続して教育相談などにも積極的に行い信頼関係の構築を進めていきたいと思います。

学習への取組

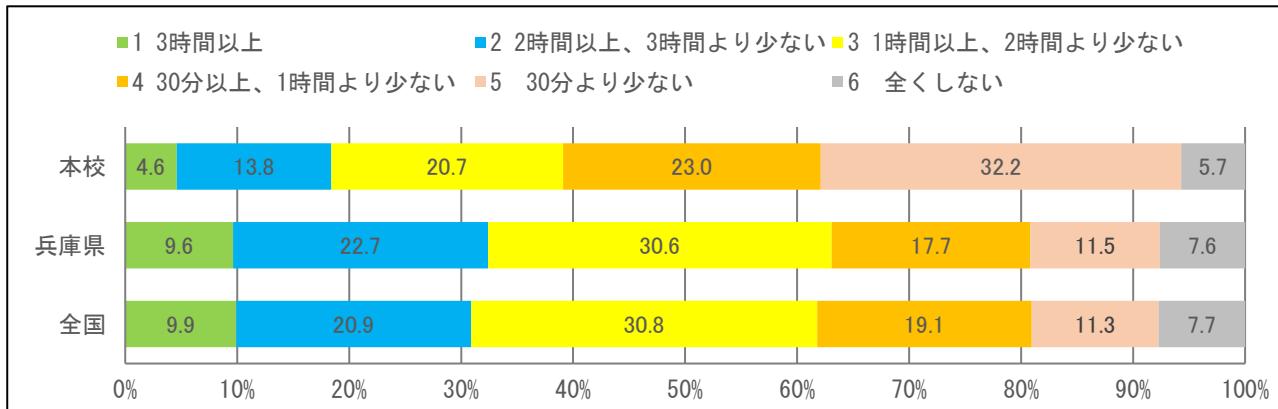
(1) 1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



(2) 1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



(3) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

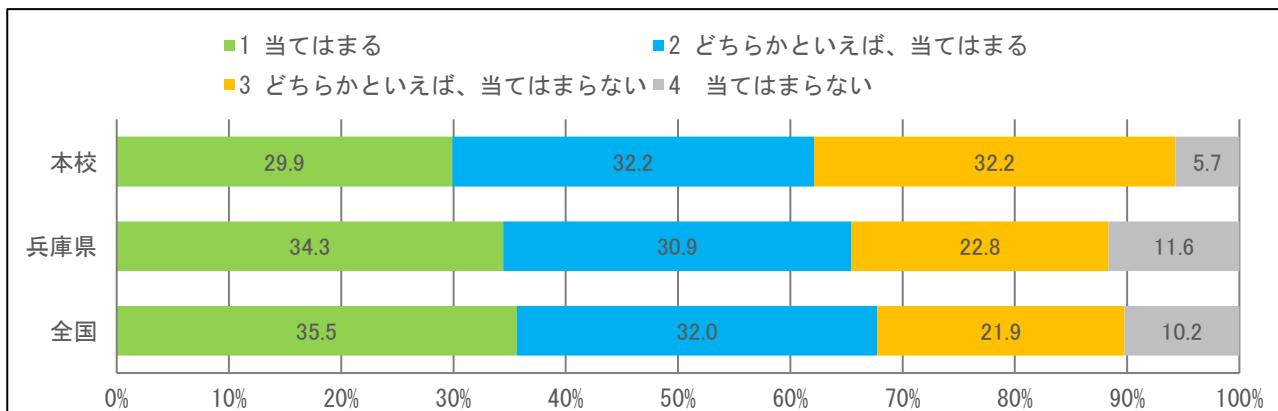


授業でのタブレット機器の使用の割合はとても高く、情報収集やプレゼンを作成できるについて活用ができている傾向があります。ただし、自分の考えをうまく伝えられるように、発表することについて、課題が見られます。

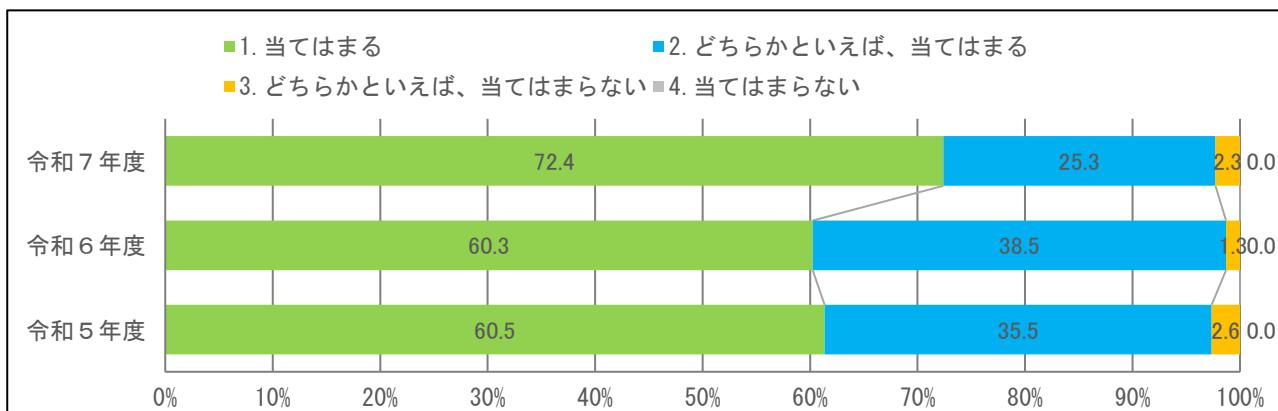
1時間以上家庭学習に取り組んでいる割合は、39.1%であり、全国と比較しても少ない割合です。家庭学習の定着が課題です。例年、本校ではSNSなどの使用時間が長い傾向があるため、家庭で使用的ルールを作るなど、過剰な使用にならないようにし、計画的に家庭学習に取り組む習慣を身につけさせていかなければなりません。

キャリア教育

(1) 将来の夢や目標を持っていますか。



(2) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



他者意識や道徳性は育っているが、自己理解や自己探求がまだ育っておらず、生き方としてどのように実現させるかが具現化されていない様子がうかがえる。今後もそれらを意識し、アントレブレナーシップ教育など充実させていきたい。

生徒が自分の良さに気づき、心理的安全性を確保された中で、様々な活動をとおして、自分が発揮し、伸長できるような環境づくりに努めます。さらに授業などでも発表の機会を増やしながら、個別最適で、協働的な学びをさらに推進していきます。